

## 令和5年度災害治療学研究所研究助成 報告書

部門：災害看護学

氏名：教授 宮崎美砂子

研究課題名：人口減少予測地域における災害時の備えの体制づくり

### 【目的】

人口減少予測地域における災害時の備えの体制づくりに向けて方策を検討し、新たな発想による取組を提案することである。この目的達成に向けて、本研究では一つの地域をモデル的に取り上げる。

### 【方法】

**調査対象**：令和元年房総半島台風を経験したA町を調査対象地域とし、自治体職員、地域住民、保健医療福祉等関係者に協力を得た。**調査方法**：(1)令和4年度に本研究に先立ち当該地域において復興とまちづくりをテーマとしたヒアリング調査を実施した。その調査結果を2次的に内容分析し、本研究の目的達成のために調査事項として取り上げる内容を検討した。(2)上記(1)の調査事項について調査対象地域の関係者とワークショップ開催による意見交換を実施する。

### 【結果】

- (1) 調査事項とした内容：「房総半島台風による生活への影響」「A町の災害対応における強み・弱み」「房総半島台風後の人口減少と高齢化による生活及び健康への影響」「今後の更なる人口減少加速による生活・健康及び災害対応への影響として懸念されること」「房総半島台風の教訓や当該地域圏域の特性を活かした今後の備えと体制づくり」の5点とした。
- (2) 調査対象地域の関係者から得られた意見：自治体職員2名、地域住民6名、保健医療福祉等関係者3名の計11名から意見を得た。人口減少予測地域における災害時の備えの体制づくりに対する意見は、「今後は自分たちで出来る事を増やすため活動の輪を拡げる」「支えあえる街の雰囲気になることが重要」「災害の専門家を採用し、防災に視点を置いた地区活動などを考える」「町は台風による課題を改善し備えに活かすことが必要」「人口減少に合わせて地区活動や町のあり方を考えていく」「避難所まで逃げられる健康づくり」などの13カテゴリに分類できた。なおワークショップによる意見交換により、各関係者の意見を相互に深められるよう計画していたが、スケジュール調整が研究期間中に整わず、得られた意見は各関係者からの個別意見となった。

### 【結論】

人口減少予測地域における災害時の備えの体制づくりは、災害に特化した個別施策ではなく、まちづくりの観点から総合的に考える必要性が示唆された。今後、多様な場を活用して、関係者同士の意見交換の場を増やししながら、人口減少予測地域における災害時の備えの体制づくりに活かす枠組みをさらに検討したい。

以上